

# 平成30年度 自己評価書

学校名	北海道登別青嶺高等学校
-----	-------------

## 1 本年度の重点目標

- (1) 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って学力を積み上げる努力をする生徒  
 (2) 自他を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒  
 (3) 自己理解を深め、自らの個性と適性に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒

## 2 自己評価結果及び改善方策

評価項目・指標等			達成状況	取組の適切さ	今後の改善の方策
大項目	中項目	小項目			
教育課程・学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成	D	B	将来構想委員会を中心に教育課程の全面見直しを図る。
		基礎・基本を大切にしている指導	B	B	朝読書・朝学習の継続により、表現力を向上させるとともに、落ち着いた授業に接続させる。
	学力向上	家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進	D	C	生徒の実態に即した課題を設定し、家庭学習の定着を図る。
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用	A	A	継続して実施する。
	授業改善	授業規律の確立	B	C	明確な目標設定と振り返りを実施し、生徒が興味・関心を持つ教材の工夫を積極的に図る。
		言語活動の充実や問題解決的な学習	C	B	
		観点別評価など評価の工夫	C	C	
		学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫	C	B	
生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進	B	B	引き続き、継続的に指導していく。
		スマートフォン等に頼らないコミュニケーションづくり	A	A	
	自主的主体的活動	活発な生徒会活動	C	B	生徒会行事を通し、主体的に活動できる生徒を育てる。
		部活動の充実・活性化	D	A	中学校との連携も積極的に図っていく。
	いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策	B	A	継続して実施する。
進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進	D	A	講習・個別指導をとおり、目標達成に努める。
	キャリア教育の推進と進路情報提供	保護者に対する十分な進路情報の提供	B	B	ホームページ、学校だより等のさらなる充実を図る。
		生徒との進路にかかる個別相談の充実	A	A	継続して実施する。
		系統的進路指導の推進	C	B	継続して実施する。
健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実	A	A	個別面談の活用と「ハイ-Q-U」等の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。
		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実	A	A	
		特別支援教育への理解の促進	C	C	
	美化活動	校舎内外の清掃・環境整備	B	B	生徒への美化活動の意識付けを図る。
	防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養	C	C	今年度、避難訓練等の実施内容を工夫。次年度も継続する。
	働き方改革	業務改善・教員の働き方改革の趣旨の理解と実践	C	B	研修を実施し、具体的な取組について計画・実施を図る。
信頼される学校づくり	地域連携とPTA活動の活性化	PTA便り・学校通信・HP・ライデンスクールなど発信の強化	A	A	学校情報はPTAだより、HP、ライデンスクール等様々に発信していることを周知する。中学校との連携は部活動も含めて積極的に図る。
		地元中学校との情報交換、部活動などの交流	C	C	
		学校行事への参画の推進などPTA活動の活性化	B	B	
組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進	C	C	報・連・相の意識を高め、日常の会話も含め情報共有に努める。
		教職員同士の意思の疎通と組織的運営	B	B	
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握	D	B	
		教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進	C	C	職員会議、朝の打合せ等を活用し教育情報の共有化を図る。
資質向上	研修等の充実	校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施	D	C	研修者のみの研修で終わることなく、研修で得た情報を職員全員が共有し、研修の効果を図る。
		徴収金に対する適正な管理と意識改革	A	A	
		教職員と保護者との連携	C	B	
		授業観察や助言による教職員の資質向上	D	C	

## 3 次年度以降の目標設定等に反映させる自己評価結果及びその改善方策事項

スマートフォンの預かり指導については生徒、保護者からも友人間のコミュニケーションづくりへ大きな効果を上げておりと評価いただいている。また、進路指導は3年間を見通したキャリア教育により国公立大学へ6名進学するなど結果を上げている。学習指導については、授業規律の確立により、生徒への基礎基本の定着を図るとともに、上位層の学力向上への個別指導・講習等を効果的に実施する。  
 また、地域の教育資源を効果的に活用するため、積極的に本校の情報発信・交流に努める。